

・¥ 裾分 CD ¥ 裾分先生 ¥200305 予備 ¥ 文献目録3.doc が最新の文献目録
人名の呼称は裾分著『レオナルド研究の手稿、素描・素画に関する基礎的研究』によった。
なお、パソコンの関係上 Windows に標準装備されていないフォントについては「ボッティチェリ*」のように「*」マークを付しておいた。

本 DatabaSe は2項目構成になっている。

- 1: 人名（本当は「人名；著書名」にすべきもの。）
- 2: 裾分先生のコメント

《文献目録A》

1: Alberti, Leon Battista, De pictura libri II , Basel, Thomas Venetorum, 1540.

2: Alberti には多くの書物がある。詳細は裾分著『レオナルド研究の手稿、素描・素画に関する基礎的研究』参照。

この人はフィレンツェに関わり、レオナルドと直接には繋がらないが、ルネサンス期を語る上で欠かすことができない人物である。特に、フランチェスカには欠かせない。アルベルティは芸術論を残した。

絵画とは何かを最も早い時期に述べた人である。書物に残した。画家以上のものである。本書は日本語にも翻訳されている（三輪訳「絵画論」）。正確には『絵画について』である。

絵画は Arte である。職人の仕事ではなく、その背景には自由7学科がある。「自由7学科」の考え方は中世からルネサンスにかけての芸術思想史の上で重要な意味を持つ。これを頭に入れてアルベルティを読まなくてはいけない。これが分かっている人が日本にどれだけいるだろうか。7自由学科を修めて初めて絵画を述べることができる。ギベルティの彫刻論、フランチェスカの絵画論、アルベルティの彫刻論・絵画論・建築論が思想的根底を形作った。

アルベルティの絵画論の内容は3部門に分けられる。

序論は絵画は Liberal Art と共に立つことを述べた。

詳しくは裾分著『イタリア・ルネサンスの芸術論研究』第一章レオナルド以前の第三節「絵画について」P74 を参照。

本論には遠近法を取り入れた画法を扱っている。絵画は幾何学と一体である。幾何学は自由7学科の一つである。画家たるものは遠近法（幾何学）を身に付けよ。近いものは大きく、遠くのは小さく描かれる。このアルベルティの画法はルネサンスに受け継がれていく。レンブラント、プッサン、ベラスケスはアルベルティの法則に則っている。この伝統的な画法は19Cに入るとピカソやマチスなどにより破られることになる。

ミケランジェロの遠近法はアルベルティほどの厳密なものではない。ミケランジェロは彫刻家で遠近法は重要ではない。遠近法を越えた芸術性を追求した。ミケランジェロは遠近法を意識して否定したのではなく、彼なりの芸術を迫及した。アルベルティの若干のミスをフランチェスカが修正した。アルベルティは一眼遠近法。

マサッチョはフィレンツェの壁画をアルベルティの遠近法で描いている。ボッティチェリ*も同じ。フランチェスカはアルベルティの遠近法を一層厳密なものにしたが、やはり、一眼遠近法であった。フランチェスカには「絵画について」と「数学論」がある画家であったと同時に数

学者であった。まさに Liberal Art の人である。レオナルドはこのような風土の中で生きた。これらを超えようとしたミケランジェロ。

アルベルティはヴィトリヴィウスの建築論に習って10章からなる建築論を書いたが、彼が残した建築物はない。

1:——, On Painting, translated from the Italian with an introduction and notes by John R.Spencer, London, Routledge and Kegan Paul Ltd., 1967.

2:

1:——, On Painting and On Sculpture, The Latin Texts of De Pictura and De Statua, edited with translations, introduction and notes by Cecil Grayson, London, Phaidon, 1972.

2:

1:——, Ten Books on Architecture, tr.into Italian by Cosimo Bartoli, and into English by James Leoni, London, Alec Tiranti Ltd., 1955.

2:

1:Alberti, Romano e Federico Zuccaro, Origine e progresso dell'Accademia del disegno di Roma, 1604.

2: ローマのデッサン・アカデミーの誕生の意味は深いものがある。そこには歴史的変革がある。画家組合が新しくなった。デッサンの重要性が認知されだした。この書物も画期的である。(ヴァザーリの初版にはデッサンという言葉はないが、第二版になると多く出てくる)

1:Albertini, Francesco, Memoriale di molte statue e pitture della città di Firenze, (Prima ed.Firenze, Tubini, 1510.) ristampato da L.Mussini, L.Viaggio, Firenze, Coi Torchi di M. チェリーニ EC., 1863.

2:レオナルドと同時代人。この書物は手に入れ難かった。リプリント版を持っている。フィレンツェが所有している彫刻と絵画などの記念品を調べ上げたもの。橋の中にその橋を製作した人の像、家の前に建築家の像、英雄のブロンズなど。我々は本気でこの書物を調べるべきである。その当時、市民の中で何がみられていたかを知ることができる。ルネサンス美術史の資料として重要。

1:Amoretti, Carlo, Memorie Storiche su la vita, gli studi e le spese di Leonardo da Vinci, Si aggiungono le Memorie intorno alla vita del ch.Baldassare Oltrocchi già prefetto della Biblioteca Ambrosiana, scritte dal suo successore Pietro Cighera, Milano, Motta, 1804.

2: 大変な学者であり、僧侶である。レオナルドの研究史の中では最初の研究者。書物の中に絵画論を入れている。「レオナルド論」を述べた。

ヴァザーリのレオナルド伝を引用している。その意味はヴァザーリが「レオナルドは天才だ」と言って、その伝説的な天才像は18Cま続いてきたが、「生のレオナルド」を扱おうとした最初の人物。18Cまでは伝説の世紀であったが、19Cになると歴史的世紀になる。Memorie は

レオナルドの生の伝記に関するメモである。ヴァザーリを批判的に読んでいる。この書物はヴァザーリ研究にも繋がる。この頃からレオナルドの残したリテラルなものに対しての研究が始まる。この端緒を築いた人物。

1:Arconati, Galeazzo, (ed.), Leonardi Vincii, Manu. et Ingenio Celeberrimi Lucubrationum, Volumina XII, Habes o. Civis.

2: 年代不詳 レオナルドと同時代の人。早い時期の伝記。ヴァザーリはこれを読んだ。レオナルドの手稿を手に入れている。英国のチャールズが譲って欲しいと請うたが、それを断ってミラノのアμβロジアーナに寄贈した。(11冊)

1:Aretino, Pietro, Lettere Sull'arte, a cura di Ettore Camesasca, (4 volumi), Milano, Edizioni del Milione, 1956.

2: レオナルドとは直接関係しない。ミケランジェロと連なる。今で言うところの評論家である。ミケランジェロと大喧嘩している。この見解について私は論文を書いた。ミケランジェロは「最後の審判」をローマ法王から要請されている。ベネチア出身のAretinoは政治的手腕を発揮していた。彼はミケランジェロに手紙を書いた。その手紙は「私、Aretinoが全体の構想を考えるから、あなたミケランジェロはそれに従って描きなさい」であった。しかし、ミケランジェロはそれに従う性格ではなかった。ミケランジェロは勝手に描き始めた。Aretinoはミケランジェロに嫌がらせをしたのでミケランジェロは開き直った。そこで、右側の地獄の入り口にAretinoの像を描いた。Aretinoは怒って法王庁に「取り壊せ」と上告したが、取り壊されないで今日に残っている。

1:Aristoteles, De Caelo, (The Loeb Classical Library, Aristotle, Methorologica, with an English translation. by H.D.P.Lee, London, 1951).

2: レオナルドはアリストテレスを読んでいる。プラトンも読んだ。ルネサンス時代にはプラトンの方が流行した。レオナルドはアリストテレス的であるが、その姿勢はアリストテレスを読んだためなのか、それとも生来のものなのかは分からない。

アリストテレスの何を読んだか。手稿の中のどこに出てくるかはソルミを見よ。(ソルミ以外に、ラヂスラオ・レティ、ハイデンライヒ、ペドレッティを見よ。)

アリストテレスに関連するレオナルドの引用。アリストテレスの思想の引用のメモ。出所不明の引用がある。ふとしたことから私はその解明にありついた (***) 再確認のこと (***)。レオナルドとアリストテレス共々の研究者でないとできない研究分野である。レオナルドはギリシア語が読めないからラテン語で読んでいる。どの書物を手に入れたか。誰かの引用をレオナルドが再度引用したものもあろう。レオナルドがどういう書物を持っていたか、読んだか、借りて読んだか、その書物の出版年などが参考事項として必要になる。

1:Armenini, Giovan Battista, De' veri precetti della Pittura, (Prima ed., Ravenna, 1587), Hildesheim-New York, Georg Olms Verlag, 1971.

2: 私(裾分)にとっては、重要な書物。表題は「絵画に関する...な法則」。Precettiは前もって置くこと。画家が守らなくてはならないこと、清貧・孤独・勤勉。レオナルドの「絵画論」

の第二章に出てくる。レオナルドが重んじるのはレオナルドの日ごろの言動に表れていた。

アルメニーニの Precetti とレオナルドの Precetti とはほとんど重なる。独デューラーにも Precetti に代わるべき語を用いている。 a rehle を使用している。... (***) 意味不明 (***)。デューラーとレオナルドの関係は気になるところである。デューラーは2回ベネチア、2回ミラノに行っている。デューラーはレオナルドと面会したであろうか、時間的・空間的にそれはないであろう。デューラーはミラノには行っている。デューラーは7通手紙を書いており、その中にミラノの天井模様についての記述がある。(永田注：前川誠郎先生はデューラーは1506年にレオナルドに会っていると書いておられる(『リッツォーリ版 世界美術全集 7 デューラー』P87の1506年の部分で「ミラノでレオナルドと会っていることも見逃せない。」とある。)一方、レオナルドは、1506年5月30日ミラノに戻るためにフィレンツェを立つ。同年8月18日ミラノの統治者はフィレンツェ政府評議会に対してレオナルドの国外滞在三ヶ月延期の許可を求める。8月28日フィレンツェ政府評議会はレオナルドに対し9月末までミラノ滞在最終延期の許可を与える。1507年1月12日レオナルドはなおミラノに滞在。3月5日レオナルドはフィレンツェに滞在。(以上は『知られざるレオナルド』P17年表より(岩波書店))。

1: Baldinucci, Filippo, Notizie dei Professori del Disegno da Cimabue in qua, con annotazioni e supplement per cura di F. Ranalli, Firenze, 1681.

———, Vocabolario Toscano dell'Arte del Disegno, Firenze, 1681.

2: デッサンに関する問題が取り上げられている。レオナルドの時代では絵画に関する問題が取り上げられたが、デッサンは取り上げられなかった。今日においても、ルネサンス期におけるデッサンに言及する人は少ない。人は見逃すが、私裾分は見逃さない。ルネサンス期までは、デッサンは作品が出来上がると捨てられていた。レオナルド以前のデッサンは残っていない。レオナルド以後は残っている。(ミケランジェロは自分の大部分のデッサンを焼却処分したため残っていないが、5~600枚は残っている。主としてミケランジェロ研究所、ロンドン、アメリカにある。) デッサンに関する時代の関心が変わっていく様子はヴァザーリとバルディヌッチ Baldinucci によって端的に現れている。それにより、当時のデッサンの意味、美術史におけるデッサンの役割を知ることができる。ヴァザーリは初版・第二版の『美術家伝』を書いた。生前に第二版を出したのはヴァザーリが最初である。(それまでの人に生前に第二版を出した人はいなかった。) 初版の書き直しが第二版。フィレンツェ、ミラノ、メルティの郷里である (***) 確認のこと 永田挿入 (***) アンブロジアーナに旅をして修正しようとした。見てない作品を見てみたい。より確かなものを第二版として出版したい。作者は亡くなってもデッサンは残っている。第二版の中にはデッサンの Concept 概念の育つのが見て取れる。初版と第二版との相違。レオナルドは作品のためにこのようなデッサンをした。そのデッサンを自分は持っている。イタリアルネサンスを研究する者はヴァザーリのデッサンという概念 Concept の芽生えを見逃してはいけない。Disegno (デザイン) は初版にはないが第二版にはいたるところに出てくる。私はそれを逐一チェックした。百何十と出てくる。「ヴァザーリの素描集」Carlo L. Ragghianti を見よ。 (***) Collobi, Licia Ragghianti, ではないか。永田 (***)

ヴァザーリのすごいところはここに止まらない。ヴァザーリは素描を3つの芸術部門の共通母体と考えた。3つの芸術部門である絵画、彫刻、建築の基本はデッサンにある。この3芸術は同じ親から生まれた。

レオナルドとミケランジェロが仲たがいでいる。ヴァザーリにはお互いを和解させようとする気持ちがあった。ミケランジェロの言葉「デッサンしなさい。アントニオ。 デッサンしなさい。アントニオ。」(聖アンナと母子像の図の中に書かれている)はヴァザーリの影響が見られる。

伊→仏へとデッサンの概念の流出があった。それにより言葉も変化した。ディゼーニョ→デッサン→デザイン。ディゼーニョには3芸術の Concept が入っているがデザインにはそれがない。デッサン・アカデミーの設立がイルネサンスの後半に起きる。バルディヌッチは17Cの終わりであるが、上記2書『チマブエ以後のデッサンを専門にする人々の情報』『デッサンに関する芸術に関わるトスカナ地方の専門用語』これらはデッサンの意味の位置付けをした。

1:Barocchi, Paola (ed.), Trattati d'arte del Cinquecento, fra Manierismo e Controriforma, (3 volumi), Bari, Gius.Laterza & Figli, 1960-62.

2: フィレンツェ・ピサ大学のプロフェッサー。女性のヴァザーリ研究者でヴァザーリ前後の時代の研究の第一人者。弟子を4・5人連れて歩く姿は威風堂々とした風格があり、印象深い思い出がある。15. 6世紀の書物に関する出版。『16世紀の芸術に関する書物』にはヴァザーリ, ミケランジェロ, Baldnucci 《について述べられている》(***) 確認せよ 永田追加 (***)

特にヴァザーリについて

ヴァザーリは美術家伝出版した。初版(1550)、第二版(1568)。第二版は初版を修正したものである。共に、ヴァザーリの生前の出版である。現在は修正された第二版が重要視されているが、バロッキは初版と第二版との相違の重要性を説く。これがバロッキの重要な仕事となっている。私もバロッキとは別に初版と第二版との相違を調べて、学術誌に発表した。私の論文には反響はなかった。板垣先生(早稲田大学)のお宅を訪ねたとき、「どのような研究をしているのですか」と尋ねられたので「ヴァザーリです」と答えたら、カラカラと笑われて「自分はヴァザーリのようないい加減な本は読まない」と言われた。私はそのとき、彼の次元を見た。ヴァザーリの重要性は多々ある。

バロッキ研究について不満なことは、ヴァザーリの素描デッサン概念やヴァザーリの人物像には迫っていないことである。今後の研究が待たれる。

1:Beatis, Antonio de, Die Reise des Kardinals Luigi d'Aragona, herausgegeben von Ludwig Pastor, Freiburg, 1905

2: レオナルドの晩年にローマから仏に行く。アンボアーズで送る途中で (***)、ローマ法王の使いがレオナルドを訪問している。枢機卿。ルイージダラゴーナ旅行記。レオナルドに会ったときの様子が書かれている。この中に、モナリザなどの3作品の他に解剖図やデッサンやマヌスクリプトを身近に置いていたことなどが記述されている。これは、レオナルドのマヌスクリプトに関して記述された最初である。レオナルドは右手に麻痺がきていたので左手で書いていた。左手は健全であった。次の年、左手で日付を書いている。死ぬ直前まで左手は健全であった。

1:Beltrami, Luca (ed.,), Documenti e memorie riguardanti, La vita e le opere di Leonardo da Vinci, in ordine cronologico, Milano, Fratelli Treves Editori, 1919.

2: 「レオナルド・ダ・ヴィンチの日付による年表」。レオナルド自筆の年代による年表。この年

表作成は地道な研究であった。その後レオナルド研究は進歩したから、後から見れば不備な点もあるが、当時としては重要な仕事であった。

1:Billi, Antonio, *Il libro di Antonio Billi*, a cura di Cornelio Fabriczy, Firenze, Archivio

2: よく使われる基礎的な文献。レオナルドやミケランジェロなどの美術家の伝記に関する情報。彼の耳に入ったルネサンス中期までの情報を伝えてくれる。ヴァザーリも Billi を読んだ。

1:Storico Italiano Serie V, Tomo VII, Proso G.P.Vieusseux.1891, pp.299-368.

———, *Il libro di Antonio Billi*, herausgegeben von Karl Frey, Berlin, G.Grotesche Verlagsbuchhandlung, 1892.

2: 新規文献

1:Blunt, Antohny → Poussin, Nicolas (1964).

2: 私は Blunt に会ったことがある。ロンドンの研究所の所長。スパイ容疑で国外追放となった。レオナルド、アルベルティ、ミケランジェロなどイタリア・ルネサンスの画家達が残した芸術論の解説者。プッサンの研究者でもある。日本では、英文でよく読まれる。

1:Borghini, Raffaello, *Il Riposo* (Prima ed., Firenze, 1584), Saggi biobibliografico e indice analitico, a cura di Mario Rosci, Edizioni Labor, Riproduzioni e Documentazioni, Milano, 1967.

2: イタリアルネサンス後期の人。作家の作品と芸術論について書いた。ラファエロ、ミケランジェロ、ヴァザーリに関して扱っている。

1:Borzelli, Angelo → Leonardo da Vinci (*Trattato della Pittura*), 1914.

2: レオナルドの「絵画論」に関する早い時期の出版物。伊語。(Mc.Mahon は英訳を付した。)「絵画論」は Borzelli(伊)、ルードヴィッヒ版(独)、マクマホン版(英)、ペドレッティ(英)の順番で出版された。Borzelli, はファクシミリなし、絵もなしである。マクマホン版は印刷が鮮明。

1:Bossi, Giuseppe, *Del Cenacolo di Leonardo da Vinci*, Milano, Stamperia Reale, 1810.

2: 「最後の晩餐」に関する最初の近代的な研究。朝倉書房の「解剖手稿」(ケネス・クラーク)の翻訳の中で Bossi について紹介されているが、そこでは「popular な Bossi」を「通俗的な Bossi」と翻訳されている。これはいけない。「皆さん良くご存知の Bossi」である。翻訳は理解して翻訳しないといけない。「最後の晩餐考」は決して通俗的なレベルではない。

1:Cantuariensis, Joannes [John Pecham], *Prospectiva comuvis*……, castigata per Facium Cardanum, Milano, Petrus Cornenus, c.1480.

2: これは古い本である。中世の遠近法。1480 年はレオナルドがミラノに来た頃の出版。ジョン・ペッカム。恐らく、遠近法に関する最初のものであろう。レオナルドはこれを見ただろうか。レオナルドが持っていたもの、読んだものを知るにはソルミ Solmi を調べるのも一つの方法。Solmi の偉いところはそれを探し出すだけでなく、レオナルドのマヌスクリプトの中からペッカムのどこを写しているか、どの写本から写しているかまでを調べていること。レオナルドの文と

比較している。第二の方法はレオナルドの遠近法に関する文を全て抜き出して、その文に類する文がペッカムにあるかどうかを調べる。

1:Carducho, Vicente, Dialogos de la Pintura, (Prima ed., Madrid, 1633), dirigela D.G.Cruzada Villaamil, Madrid, Imprenta De Manuel Galiano, 1865.

2: スペイン語で書かれている。レオナルドのことに關してとマドリッド手稿（この言葉は用いられていない）に關することが書いてある。特にパラゴネ（芸術比較論）のことに對して。ウルビノ稿本を彼は見ていないが、「比較論」がミラノの宮廷で論議を呼んでいたことは知っていたし、また、この論議はスペインでも生じていたためである。Dialogos de la Pintura : 絵画に關する論議。

1:Castiglione, Baldassare, Il cortegiano, (Prima ed., 1528), (Opere di B.Castiglione, La Letteratura Italiana, Storia e Testi, Volume 27), a cura di Carlo Cordie, Milano-Napoli, Riccardo Ricciardi Editore, 1960.

2:レオナルドがミラノにいたとき、どのような宮廷との接触をしたかについて書かれている。cortegiano : 宮廷に仕える人。宮廷人。比較論の様子が書かれている。宮廷人における芸術論の様子が書いてある。宮廷に仕えるような高貴な女性は「左目と右唇で笑え」「上品であれ」と書いてある。モナリザをこれで説明しようとした書物。伊文学大系の27巻目がこのCastiglione。ミラノ時代のレオナルドの様子を窺い知ることができる材料を提供してくれる。

1:Cellini, Benvenuto, La vita scritta da lui medesimo, (Prima ed., curata da A.Cocchi e dedicata a Lord Boyle, Napoli 1728), per cura di Paolo d'Ancona, Milano, L.F.Coglianti del Dr.Guido Martinelli, 1925.

2: 美術家の伝記、自伝（チェリーニ自身の伝記：彫刻家がどのように育ったかを例として知ることができる）を書いた。ミケランジェロの弟事的な事をしていたかも知れない。チェリーニは女たらしで女性を種々利用した。ある仕事をして、その仕事でお金を得たことが書いてある。作品の苦悩についての歴史ではなく、お金の話が出てくる。美術の体たらくが見て取れる。伊のバルキはミケランジェロに質問状を出した。ヴァザーリ、チェリーニにも出している。当時の師弟関係を具体的に書いた。作品そのものはミケランジェロに見劣りがする。フィレンツェのウフィチの入口にチェリーニのブロンズ像があり、彼の下手な作品が広場に置いてある。チェリーニは誇張する癖がある。自伝はその辺を汲んで読まねばならない。モデルを裸にして見ている。レオナルドやミケランジェロは女性を裸体にしてデッサンしたとは考えられない。ねじれた姿勢（フィグール・セルペンティナータ。）はミケランジェロの特徴である。

ロレンツォの庭がある。寝ているかどうかの詠み人知らずの詩がある。それによってミケランジェロは「自分は寝ているのだ。静かにしてくれ。」という詩を返している。ポーズのためポーズ。

母が子供を抱いて高いところへ登るシーンがあるが、それは現実のポーズではなく、ミケランジェロの想像で描いた絵である。アダムとエバはアダムの姿勢は人間としての命が与えられる前のポーズである。しかし、人間の腕の表現。手のひねり。セルペンティナータ。ミケランジェロはモデルに基づかない。彼の作品は想像上の産物である。

ミケランジェロとアンドレアが頂点。17Cまで。現実の人間を離れた人間表現。

*画家、彫刻家が自伝を書くことは稀であった。ヴァザーリやチェリーニは自伝を書いた。自我の自覚をルネサンスの特徴という人もいる。

レオナルド研究は絵画のみならず、もうひとつの遺産がある。レオナルドを理解するためには絵画とリテラルとの突き合わせが必要である。それともう一つ、レオナルドの自筆が読めなくてはいけない。これは時間のかかる努力が必要である。若い人がついてこない理由の一つであろう。

1:Cennini, Cennino, *Il libro dell'arte o trattato della pittura*, per cura di Gaetano e Carlo Milanesi, Firenze, Le Monnier, 1859.

———, *Il libro dell'arte*, ed.by Daniel V.Thompson, Jr., New Haven, Yale University Press, 1932.

———, *Il libro dell'arte*, a cura di Renzo Simi, Firenze, Marzocco, 1943.

———, *Il libro dell'arte*, commentato e annotato da Franco Brunello con una introduzione di Licisco Magagnato, Vicenza, Neri Pozza Editore, 1971.

———, *Il libro dell'arte o trattato della pittura*, a cura di Fernando Tempesti, Milano, Longanesi & C., 1975.

2: 絵画制作のときに使用する絵の具や材料について丹念に記述した。現在の我々が当時の画家がどのように絵を描いたかが分かる。フレスコには乾法と湿法とがあることを彼を通して具体的に知ることができる。湿法（ブオーノ）は水彩画として描くことができる。表面のみならず深部までも絵の具が滲みている。しかし、広い画面に一度に壁に描くことはできない。修正が効かず、能率は悪い。一方、乾法（セッコ）は乾いた壁に直に描く方法。水分は吸われるが、顔料は滲みこまない。すぐに乾く。大きい画面には無理。修正が効いて能率も良い。顔料を卵または別の粘着材で混ぜて描く。絵画技法について述べた最初のもの。

日本語訳とフランス語訳がある。その中でてくる絵画の技法（フレスコ技法）をもっと緊張して出版したい。小さい本だが重要である。色を泥の壁に塗るのであるが、その顔料の出所、どのような混ぜ方をするか、などの色についての研究をチェンニーニを通してみると14世紀のフレスコ技法の材料の情報が手に入る。Rosso（赤）とあれば、日本語の赤と訳すればよいのではなく、顔料にさかのぼって手続きを経て材料に関する研究をするのがよい。

日本の万葉に色に関する言葉がいくつでてくるか。万葉集総索引。色に関するもの。言葉でどのような色の区分をしているか。それと同じ方法でチェンニーニをみると面白いであろう。西洋の芸術において顔料について、ギリシャはどうであるか。中世、ルネサンス、言葉の呼び方や実際の色は全くといってよいほどなされていない。

「赤」Rossoにも種々な赤がある。抽象的な色の言葉に加えて樹木の色や空色、天気により異なる色彩学は大変な分野であるが手つかずの世界である。

レオナルドは色についてどれだけの言葉が使われているか。手稿を調べること。インデックスから Atlantico において用いられた色に関する言葉。

1:Chamberlaine, John, *Imitations of original designs by Leonard da Vinci, consisting of various drawing of...*, and in particular of very accurate delineations, with a most spirited pen of a variety of anatomical subjects in His Majesty's Collection, London, Bulmer, 1796.

——, Original designs of the most celebrated masters in His Majesty's Collection, engraved by Bartolozzi, etc ...with biographical and historical sketches of Leonardo da Vinci, London, 1812.

2: 古い本である。ウインザーのデッサンを模写したもの。Hollar Wenceslaus (ホルル ベンチュスラウス) を参照。19057 はホルル銅板画集に出てくる。ケネス・クラークにもでてくる。

1:Condivi, Ascanio, Vita di Michelangelo, (Prima ed., 1553) Firenze, Rinascimento del Libro, 1964.

——, The life of Michelangelo, translated by Alice Sedgwick Wohl, Baton Rouge, Louisiana State University Press, 1976.

2: ミケランジェロの伝記。ヴァザーリよりも早い時期のもの。しかし正確である。

1:Cooper, Edward, Serie di tavole riproducenti disegni anatomici ai Leonardo relativi di movimenti del corpo umano, Londra, circa il 1720.

2: 版画家。模写版画集。

1:Dante Alighieri, La Divina Commedia, note a cura di Lodovico Magugliani, Milano, Rizzoli, 1949.

——, La Divina Commedia, testo critico della Societa Dantesca Italiana, col commento scartazziano, rifatto da G.Vandelli, Diciassettesima ed., Milano, 1958.

——, Il Convivio, a cura di G.Busnelli e G.Vandelli, con introduzione di M.Barbi, Tomo Primo, 2nd ed., Firenze, 1954.

——, Rime della "Vita Nuova" e della Giovinezza, a cura di M.Barti e F.Maggini, Firenze, 1956.

——, De vulgari eloquentia, commentato e tradotto da A.Marigo, con appendice di aggiornamento, a cura di Piere Giorgio, Ricci, 3rd ed., Firenze, 1957.

2: レオナルドの時代にどのような言葉がどのような使われ方をしていたか。「神曲」は索引が完備している。

1:Dolce, Lodovico, Dialogo della Pittura, intitolato l'Aretino, Venezia, 1557.

2: ミケランジェロ研究の必須文献

1:Doni, Antonio Francesco, Dialogo del Disegno, Venezia, 1549.

——, Disegno, Fac-simile, della edizione del 1549 di Venezia, introduzione e commento critico, a cura di Mario Pepe, Milano, Electa, 1970.

2: ミケランジェロ研究の必須文献

1:Fabriczy, Cornelio → Billi, Antonio (1891).

——, → Gelli, Giovanni Battista (1896, 1897).

2: イタリアルネサンスの美術家伝記を集めたもの。

1:Franchi, Antonio, La Teoria della Pittura, Lucca, Marescandoli, 1739.

2: レオナルドの絵画論に関するもの。専門すぎる。

1:Frey, Karl → Billi, Antonio (1892).

———, Le vite di Michelangelo, ...etc → B

———, →ヴァザーリ, Giorgio (1911)

———, →ヴァザーリ, Giorgio (1923, 1930, reprint 1982).

———, →ヴァザーリ, Giorgio (1941).

———, → Michelangelo Buonarroti (1961).

———, (ed.), Il codice Magliabecchiano cl.XVII.17, scritte da Antonio Fiorentino, herausgegeben und mit einem Abrisse uber florentinische Kunsthistoriographie, (Berlin, G.Grotesche Verlagsbuchhandlung, 1892), Gregg International Publishers Limited, 1969.

2: ミケランジェロやヴァザーリに関するもの。たいした研究者である。

1:Gaye, Giovanni (ed.), Carteggio inedito d'artisti dei secoli XIV, XV, XVI, pubblicato ed illustrato con documenti pure inediti dal Dott.Giovanni Gaye, (3volumi), Firenze, Presso Giuseppe Molini 1839-40, reprint, Torino, Bottega d'Erasmus, 1960.

2: 美術史の専門書というよりも、美術家の残した手紙を集めて編纂したもの。14世紀から16世紀にかけての美術家の書簡集。研究には不可欠の書物。書簡が多いのはミケランジェロ。レオナルドは5、6通。手紙の下書きも。(レオナルドの下書きもある)

1:Gelli, Giovanni Battista, Il libro di Giovanni Battista Gelli, a cura di Cornelio Fabriczy, <Repertorium fur Kunstwissenschaft, XIX, 1896>.

2: 最初期の美術家伝記。ヴァザーリも参考にした。

1:Gerli, Carlo Giuseppe (incisi e pubblicati), Disegni di Leonardo da Vinci, (Milano, Giuseppe Galeazzi, 1784, Milano, Ronchi, 1830), Trento, La Rocca, 1974.

2:Gerli がウインザーで見たレオナルドのその中の200枚ほどを木版で、彫ったレオナルド素描集。この時代には写真がなく写真製版ができなかったのである。この版画集を通してレオナルドは一般に知られるようになった。レオナルド研究が始まることとなる。この本は歴史的意味はあるが今日ではあまり使われていない。

1:Ghiberti, Lorenzo, Denkwurdigkeiten (I commentarii), zum ersten Male, nach der Handschrift der Biblioteca Nazionale in Florenz, volständig herausgegeben und erlautert von Julius von Schlosser, (2 Banden), Berlin, Im Verlag von Julius Bard, 1912.

———, I connentarii, a cura di Ottavio Morisani, Napoli, Riccardo Riccardi, 1947.

2:commentarii : コメント・備忘録。当時の資料として大事。周辺の事情がわかる。彫刻の用意、準備、どのように使ったか、工房の中の手作業までも出てくる。アルベルティの絵画論とともに重要な書物である。イタリア語訳やドイツ語訳があるが日本語はまだである。

1:Giannotti, Donato, Dialogi di Donato Giannotti, De'giorni che Dante consumo nel cercare l'inferno e'l purgatorio, edizione critica a cura di Deoclecio Redig de Campos, Firenze, G.C.Sansoni, 1939.

2: ジャンノッティ。レオナルドとは直接関係は無いが、この本は会話体で書かれている。ルネサンス時代の人ダンテは地獄・煉獄をめぐるのにどれぐらいの日数を要したか。ダンテの神曲の中にはギリシア時代のアリストテやレスソクラテスは地獄。イエスの信託を受けていないため地獄に落ちている。煉獄は中間的な場所。天国に入るためにはかなわないが、地獄に行かせるには可愛そうだと中間を設けている。レオナルドやミケランジェロよりも以前の本である。当時の人々が地獄や煉獄をどのように考えていたかがわかる。ミケランジェロは最後の審判を描いた。その内容を知るためにはこの本が必要である。レオナルドとの関係では、天変地異の描写。新約聖書は世界の終末、最後の氾濫。最後は世界の最後のこと。レオナルドの素描で世界の終末（ウインザー）はこれと関連させてみると良い。大洪水、人類の最後。聖書の中の大洪水とは違う。

ミケランジェロの最後の審判は宗教の世界

レオナルドの地球最後の日は物理的最後

1:Giovio Paolo, De viris illustribus (Prima ed., 1524), stampato dal Tiraboschi, Storia della letteratura Galiana, 1781.

2:Gelliと同じ。ルネサンス初期の資料。ヴァザーリが伝記を書いたときの資料。リヒターはこのGiovio Paoloを紹介している。

1:Goethe, Johann von Wolfgang, Theory on Colours, translated from the German with notes by Charles Lock Eastlake, London, John Murray, 1840.

———, Joseph Bossi uber Leonardo da Vincis Abendmahl zu Mailand, Leonardo da Vinci der Kunstler und seine Zeit, im Auftrag der Deutschen Akademie der Kunste, herausgegeben von Heinz Ludecke, Berlin, Henschelverlag, 1925, pp.114-127.

2:レオナルドの最後の審判に関する古い本（Bossi）。ゲーテはレオナルドに対して最大の賛辞を送っている。

1:Gramatica, Don Luigi → Mazenta, Ambrogio (1919).

2:Mazenta のメモ。レオナルドの手稿に関して集めている。編集して出版した人が Gramatica。

1:Grayson, CecilCecilyajirusi → Alberti, Leon Battista (1972).

———, → Alberti, Leon Battista (1975).

2: アルベルティの「絵画論」英語版が2種類ある。これはそのうちの一つである。（参照：Spencer 最初の英訳）アルベルティには『絵画論』だけではなく『彫刻論』、『建築論』がある。この三つは重要である。アルベルティの英語訳、ドイツ語訳がある。アルベルティの『絵画論』中に理解できない Superbipartienti という言葉があった。私裾分がその解説の鍵をレオナルドのマドリッド手稿の中に見出した。（参照：『イタリア・ルネサンスの芸術論研究』所収「アル

ベルティの疑問をレオナルドの中に解く」 P92-99)

レオナルドはパチオーリの表をマドリッド手稿に書き込んでいる。

イタリアルネサンスにおいて当時の人々が絵画彫刻についていかにとらえるべきか、またどのようにして描かれたり、建築されたか、アルベルティが画家に接近した記録として重要である。作品（ボッティチェリなど）をどのように考えどのように開拓していたかを知るためには当時の文献が必要。

リテラルな遺産は大事である。アルベルティの「絵画論」は、日本では三輪が訳しているが、私はその訳には不満である。

Arte とは。三輪は関係なく翻訳している。Arte は単に芸術ではなく、当時ではむしろ「技術」が本意であろう。当時「芸術」という概念は無い。

Arte is long. Life is short. この場合、Art は芸術ではなく技術である。「Art(技術)を身に付けるには長い時間が人生は短い」という意味である。

1:Hollanda, Francisco de, I quattro dialoghi intorno alla pittura antica, (Le opere di Francisco de Hollanda), per cura di Achille Perrella e C. Editori, 1914.

———, I dialoghi Michelangioli, traduzione dal Portoghese, a cura di Antonietta Maria Bessone Aureli, Roma, Successoli Loescher, 1924.

2: ミケランジェロに関する伝記。当時の人である。「ミケランジェロとの対話」日本語訳あり(***?***). ヴァザーリより少ないが、正確だと言われている。ヴァザーリには誇張が多いから注意が必要。

この2冊は同じものである。表題が異なるのみ。

1:Hollar, Wenceslaus, Varie Figurae et probae artis picturae incipiendae juventuti utiles a Venceslao Hollar collectae et aquae forti aere incisae, Antwerpiae, 1645.

———, Diversae Effigies, a Venceslao Hollar aquae forti aere insculptae, Antwerpiae, 1648.

———, Divers Antikes Faces after Leonardo da Vinci, etshd in coper by Vinceslaus Holla, and sold by John Overton at the white horse in giltspur Street, London, 1666.

2: レオナルドが持っていたデッサンの素描・素画の類。スペインからイギリスのウインザーに入る直前にレオナルドの素描の出版をしている。当時の出版（17世紀）は版画による出版であった。レオナルドの素描集の最初のもの。似て非なる絵画となっている。しかし重要な書類である。この作品をホルルはこのように彫っている。失われたものもホルルにより補うことができる。文章も写しているので、失われたものを知ることができる。この1645年から写真ファクシミリによる紹介がなされるまでの間はホルルの版画によりレオナルドが紹介されたのである。以下の2冊は同じもの。この3冊は同じである。

1:Keele, Kenneth D. → Leonardo da Vinci (Manoscritto), 1979-80.

2: カリフォルニア大学の解剖教授。

1:Landuccu, Luca, Diario fiorentino, dal 1450 al 1516, continuato da un anonimo fino al 1542, pubblicato sui Codici della Comunale di Siena e della Marucelliana, con annotazioni da Iodoco

del Badia, (Firenze, 1883), eirtampa, Firenze, Studio Biblos, 1969.

———, A Florentine Diary, from 1450 to 1516, continued by an anonymous writer till 1542 with notes by Iodoco del Badia, tr.By A.de RosenJervis, London, J.M/Dent & Sons Ltd.Publishers, 1927, reprinted, New York, Arno Press, 1969.

2: 古資料。フィレンツェやイタリアの文化人に関するもの。手帳にメモを書き残したものを出版。フィレンツェ人の日記。フィレンツェにダビデ像が建っている。その場所には以前にはギベルティの彫刻が立っていた。それを横に置いてミケランジェロのダビデ像を立てるという計画に妨害があったという記録が日記に書かれている。ミケランジェロをフィレンツェの人々が味方して今の姿になっている。

Leonardo da Vinci (Manoscritto e Disegno 手稿、素描・素画)

レオナルドには 7000 ページにのぼる手稿が残されており、それらは 9 部門に分けられる。

- I. アトランティコ手稿
- II. トリヴルツィオ手稿
- III. 鳥の飛翔に関する手稿
- IV. パリ手稿
- V. 解剖手稿
- VI. アランデル手稿
- VII. フォースター手稿
- VIII. マドリッド手稿
- IX. レスター手稿

1: Saggio dela opere di Leonardo da Vinci, con ventiquattro tavole fotolitografiche di scritte e disegni, tratti dal Codice Alantico, Milano, Tito di Giovanni Ricordi-Inpresse, 1872.

2: どの図書館にもない。19Cの終わりに出版された。レオナルドの素描・素画については最初の出版物であり、Atlantico の最初の出版物であり24枚が紹介されている。1872 年。(ゴビ版と呼ばれる：永田註)。何冊出版されたかは分からない。歴史的な出版物である。Verga には出ている。私はこの希少本を手に入れることができた。わずか24枚であるが、ここからレオナルドの興味関心が始まる。または興味関心が始まっていたからこの出版があったといえる、かもしれない。18・19Cになって、歴史的時代に入った。客観的な歴史検証に基づくものであり、風聞によるものではない。この大きな流れの中でのレオナルドに関する書物である。この書物の後、Ravaisson-Mollien 版(1881-91)が出版されることになる。Raveisson は活字化される。伝説から客観へ。もう一つのレオナルドの遺産(マヌスクリプトのこと)がマスプロで世に問われることになる。新しい出発である。この出発はわずか24枚であるが、この刺激が与えたその意義は大きい。ゴビ版(1872)は約1200枚の中からの24枚であったが、パリ手稿(ラヴェッソン・モリアン版1881-1891)は全部を出している。Raveisson が出て、レオナルドの全貌を出版しようという方向が決定的になる。

1:Il Codice Atlantico di Leonardo da vinci, nella Biblioteca Ambrosiana di Milano, riprodotto e pulicato dalla Regia Accademia dei Lincei, sotto gli auspici e col sussidio del Re e del Giverno, (2

volumi), Milano, Ulrico Hoepli Editore-Libraio della Real Casa e della R.Accademia dei Lincei, 1894-1904.

2:Atlantico 手稿の第二番目の出版物。ヘプリ版と呼ばれる。私はこのヘプリ版を所有している。この版でアトランティコ手稿の全貌が出て、本格的なレオナルド研究が始まることになる。全貌といっても、アンブロジアーナが所有していた状態のままの404枚の全貌である。20年前に修復しようとしてローマの修道院に持ち込み、レオーニが大判の紙に貼り付けていた紙を剥がして、一枚一枚を別々にしたら、1112枚になった。

1:Il Codice Atlantico di Leonardo da Vinci, nella Biblioteca Ambrosiana di Milano, riprodotto e pubblicato dalla Regia Accademia dei Lincei, sotto gli ausupici e col sussidio del Re e del Governo, Milano, Ulrico Hoepli Editore-Libraio della Real Casa e della R.Accademia dei Lincei, (3 volumi), Tokyo, Bunryu Reprint, 1974.

2: ヘプリ版のリプリント版でテキストだけで素描・素画はない。Pedretthi が序文を書いている。出版社は文流で 50 部が出版された。

1:Dizionario Leonardesco, Repertorio generale delle voci e cose, contenute nel Codice Atlantico (a cura di Givannni Galbiati) Milano, Editore Ulrico Hoepli, 1939.

2:Atlantico の dictionary である。次のインデックスと共にこれら二冊がアトランティコ研究を進めさせた。アトランティコ出版から 30 年以上を要した貴重な研究業績である。Givannni Galbiati は熱心な学者である。

1:Indici per materie ed alfabetico del Codice Atlantico di Leonardo da Vinci, compliati da Guido Semenza, riveduti e pubblicati da Roberto Maecolongo della R.Commissione Vinciana, Milano, Ulrico Hoepli Editore-Libraio della Real Casa e della R.Accademia dei Lincei, 1939-47.

2: 上記参照

1:Il Codice Atlantico di Leonardo da Vinci, edizione in facsimile dopo il restauro dell'originale, conservato nella Biblioteca Ambrosiana di Milano, (12 volumi), Firenze, Giunti-Barbera, 1973-75.

2:restauro は修復された Atlantico。ファクシミリである。

1:Il Codice Atlantico della Biblioteca Ambrosiana di Milano, trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marioni, (12 volumi), Firenze, Gionti-Barbera 1975-80.

2: 上記ファクシミリ版のテキストである。マリノーニの業績。地味な仕事である。アトランティコ手稿はヘプリ版とジュンティ版の 2 回出版された。最初のヘプリ版の読み方の批判がジュンティの読み方として修正されていった。ジュンティ版は12冊のファクシミリと12冊のテキストからなる。一冊が 30 万円もした。それほど高価で、何十年もかけて出版されたのに、ファクシミリではずさんにも図が天地逆であったり、フィルムが裏表逆になっていたりして、購入した私は怒りを覚えた。アメリカに行ったときに「レオナルドの天地左右について」の論文を書いた。この

ようなことが生じたのもレオナルドが左ぎっちょでやむ得ないことであろう。リヒターの中にも天地逆がある。ハマー手稿（レスター手稿）がアメリカに売却された時、「ナチオーネ」新聞紙上で天地逆に紹介された。「ニューヨーク」紙上に再紹介されたときも天地逆であった。

1:Atlantico の Jonson-Reprint Pedretthi の Newly restored sheets 2vols 1979

2: 修復後に増えた新紙葉（貼り付けられた紙葉の裏側から現れた）。

1:Il Codice di Leonardo da Vinci, nella Biblioteca Trivukziana di Milano, trascritto ed annotato da Luca Beltrami, Milano, Angelo della Croce, 1891.

2:トリヴルツィオ手稿は当時の伊語とラテン語の単語帳ないし単語のメモ帳である。単なる単語帳であるが、ラテン語を勉強するための単語帳であり、レオナルドの勉強ぶりを見ることができる。その単語を拾い上げて、レオナルドがどの書物からその単語を得たかを調べる学者がいた。A. マリノーニは引用されたラテン語の元の書物はどれかを調査した。トリヴルツィオ手稿は① 1891、② 1939、③ 1980、④ 1980 と 4 回の出版がある。シャステルのは重要ではない。マリノーニが関わっているだけのこと。レオナルドはラテン語が読めたか？ 現在でもその点については不明であるが、ある程度の判断はある。McCarthy が言うように人に教えるほどではないが理解はできる程度であったようだ。古浦敏生「レオナルドの「ラテン語学習メモ」考」（『フィレンツェの秋』所収）参照。

1:Il Codice Trivulziano, Comune di Milano, Raccolta Vinciana, Testi Vinciani, trascritto per cura di Nando de Toni, Milano, Castello Sforzesco, 1939.

2:

1:Il Codice di Leonardo da Vinci, nella Biblioteca Trivulziana di Milano, trascrizione diplomatica e critica di Anna Maria Brizio, Firenze, Giunti-Barbera, 1980.

2:

1:Leonardo da Vinci, Codice Trivulziano, Il Codice N° 2162 della Biblioteca Trivulziana di Milano, introduzione, trascrizioni, glossario e indice dei nomi e della cose di Augusti Marinoni, con una nota di Andre Chastel, Milano, Arcadia-Electa, 1980.

2:

1:I Manoscritti di Leonardo da Vinci, Codice sul volo degli uccelli, e varie altre materie, pubblicato da Teodoro Sabachnikoff, trascrizioni e note di Giovanni Piumati, traduzione in lingua Francese di Carlo Ravaisson-Mollien, Parigi, Edoardo Rouveyre Editore, 1893.

2: (*1) 私はパリ手稿に手を取られていて、Uccelli には関わっていない。Uccelli は飛翔に関する観察と力学のまとまったもの。

1:Leonardo da Vinci, Il Codice sul volo degli uccelli, riproduzione in facsimile del Codice, trascrizione ed annotazioni bibliografiche, a cura di Jotti da Badia Polesine, Milano, Spartaco

Giovene-Editore, 1946.

2: (*2) 裾分 List には 1926 年とあるが、1946 年が正しい。

1:Leonardo da Vinci, Il Codice sul volo degli uccelli, nella Biblioteca Reale di Torino, a cura di Augusto Marinoni con le note di Carlo Pedretti, Firenze, Giunti-Barbera, 1979.(『鳥の飛翔に関する手稿』岩波書店, 1980.)

2: (*3)

1:Les Manuscrits de Leonard de Vinci, A-M de la Bibliotheque de l'Institut de France, et Ashburnham 2038 et 2037 de la Bibliotheque Nationale, par Charles Ravaisson-Mollien, (6volumes), Paris, Quantin, 1881-91.(A, 1881; B&D, 1883; C, E & K, 1888; F & I, 1889; G, L & M, 1890; H, Ash.2038 et 2037, 1891).

2: ラヴェッソン・モリアン (Ravaisson-Mollien) 版と呼ばれる。パリ手稿の全てを紹介したものとしては一番古く、アトランティコ手稿の全貌紹介よりも早い。図と翻刻、仏訳から成っている。レオナルド研究の出発点となる。19Cの後半は歴史資料が学問研究の対象となってきた。(*1)

1:I Manoscritti e i disegni di Leonardo da Vinci, pubblicati dalla Reale commissione Vinciana, sotto gli auspici del Ministero dell'Educazione Nazionale, Volume, II, Il Codice A (2172) nell'Istituto di Francia, Roma, La Libreria dello Stato, 1936.

Volume III, Il Codice A (2172) nell'Istituto di Francia, (Complementi), Roma, La Libreria dello Stato.1938.

Volume V, Il Codice B (2173) nell'Istituto di Francia, Roma, La Libreria dello Stato, 1941.

2: レオナルド研究者であるカルーシ (Carusi, Marcolongo) による。以上は Ravaisson-Mollien 版の修正を期した。(*2)

1:Leonard de Vinci, Manuscrit A de l'Institut de France, introduction et traduction française d'Andre Corbeau transcriptions du Dr.Ing.Nando de Toni, Grenoble, Roissard, 1972; Manuscrit B, 1960; Manuscrit C, 1964; Manuscrit D, 1964.

2: パリ手稿 A ~ D までが出版される。私は Nando de Toni に会った。息子さんは Jobanni de Toni。コルボーには会えなかった。しかし、コルボーの未亡人には会った。(*3)

1:Leonardo da Vinci, I Manoscritti dell'Institut de France, Il Manoscritto A-M, Trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni edizione in facsimile sotto gli auspici della Commissione nazionale Vinciana e dell'Institut de France, Firenze, Giunti-Barbera, 1986-90.

2: パリ手稿 A ~ M (J はない。J は伊語にはないため。) 1000 部出版され、その内 200 部が日本語での出版。(*4) パリ手稿は以上のように 4 度出版されたが、完全揃いは (*1) と (*4) の 2 度だけ。最後の (*4) マリノーニ版だけで十分かというそうではない。(*2) があればこそ (*3) が、(*3) があればこそ (*4) が出版された。なお、マリノーニにもミスがある。岩波の出版の中で私は執拗にミスを指摘してきた。この指摘は注の中に書き留めてあるが、この指摘が書かれているのは日本語版だけである。(*1)、(*2)、(*3) と比較して読

んだ。注に記してある。マリノーニはレオナルドの逆文字が読める学者である。しかし、MとNとの読み違いがある。日本語では意味が変わる。母国語同士だからこそ見えない部分がある。また、マリノーニの四角の図形に振られたアルファベットのA,B,C,Dの位置が異なる。左上隅のAはレオナルドと一致しているが、レオナルドは逆ネジ回りにB,C,Dに対して、マリノーニは右上B、左下C、右下Dとなっている。他の人はそのまま翻訳していったが、私はAD:DC=....と読み進めていった。注を入れてBはDの「レオナルドのミスか?」とこまめに注を入れた。マリノーニが読み損ねた場合は「マリノーニの訳を訂正」と注記したり、「マリノーニのミスと思うが、レオナルドのミスか?」と注記した。恩師谷口鉄雄先生の口癖は「丁寧に読みなさい」であった。

1:I Manoscritti di Leonardo da Vinci della Reale Biblioteca di Windsor, Dell' Anatomia, Fogli A, pubblicati da Teodoro Sabachnikoff, trascritti ed annotati da Giovanni Piumati, con traduzione in lingua Francese, preceduti da uno studio di Mathias-Duval, Parigi, Edoardo Rouveyre Editore, 1898.

2:Fogli A と呼ばれる。仏訳のみ。(*1)

1:I Manoscritti di Leonardo da Vinci della Reale Biblioteca di Windsor, Del? Anatomia, Fogli B, pubblicati da Teodoro Sabachnikoff, trascritti ed annotati da Giovanni Piumati, con traduzione in lingua Francese, Torino, Roux e Viarengo Editori, 1901.

2:Fogli B と呼ばれる。仏訳のみ。(*2)

1:Leonardo da Vinci, Quaderni d'Anatomia della Royal Library di Windsor (I - VI), pubblicati da Ove C.L.Vangensten, A.Fonahn, H.Hopstock con traduzione Inglese e Tedesca, Christiania, Casa Editrice Jacob Dybwad, 1911-16.

2:Fogli Q または Fogli C と呼ばれる。英・独訳。Fogli A, Fogli B, Fogli C の解剖手稿において果たした役割は大きい。(*3) (***) 仏語訳は? (***)

1:Leonardo da Vinci, Il trattato dell'anatomia, a cura dell'Istituto di Storia della Medicina dell'Universita di Roma, (3 volumi), Roma, 1962.

2: Piumati (Fogli A, B) や Vangensten (Fogli Q) からの解剖論集。図はない。翻刻のみ。3冊本。(*4) (***) Piumati は出版者ではないが? (***)

1:Leonardo da Vinci, Corpus of the anatomical studies in the Collection of Her Majesty the Queen at Windsor Castle, edited by Kenneth D.Keele and Carlo Pedertti, (3 volumes), London, Johnson Reprint, 1979 and 1980 (『解剖手稿』岩波書店, 1982).

2: (*5) 岡山大学の山田致知先生(解剖学:後に金沢大学教授)を中心に我々レオナルド研究者がチームを組んで翻訳に取り組んだ。我々には解剖学の素養がないので、山田先生の取り計らいで解剖実習を見学させていただいた。それは今でも怖い思い出である。その日は食事もできなかった。翻訳にあたり四分の一ずつ担当を組んだが翻訳は難航した。例えば、「Vena」は今日では静脈を指すが、当時は一般の「血管」を指していた。当時は、動脈に

は血液は流れてなく動脈は気管と考えられていたのである。このように、当時の単語の意味と今日の意味が異なっていたり、レオナルドの解剖学的誤謬があったりしてすんなりと翻訳すれば良いと言うものではなかった。更には、レオナルドの「vena」は前後関係からして「臍」ではないかと山田教授がいぶかしく思う部分もあった。それらは、訳者注として書いておいた。

1:Leonardo de Vinci, Feuilletts ineditis, reproduits d'apres les originaux conserve a la Bibliotheque du Chateau de Windsor, publication honoree de la souscription du Ministere de L'instruction publique et des Beaux-Art, vol.I -XII, Paris, Edouard Rouveyre, 1901.

2: (*6) Rouveyre はルーベイルまたはルーベユと読む。この書物はレオナルドの素描・素画の全てを収集したもので、12巻あるが、ウインザー以外のもも含まれる。許可なしの出版であったため、出版さしどめとなった書物。私のところには偶然手に入った。図は良好。

1:The Drawings of Leonardo da Vinci, in the Collection of Her Majesty the Queen at Windsor Castle, by Kenneth Clark, 2nd edition, revised with the assistance of Carlo Pedretti, (3 volumes), London, Phaidon, 1968-69.

2: (*7) 初版本には解剖手稿に関しては図がない。解剖手稿以外の素描集のほうも図は小さく、図録集とでも言える書物で研究書とは言えないレベルのもの。第二版は Pedretthi が加わり、学術書となった。

1:Leonardo da Vinci, Landscapes, plants and water studies in the Collection of Her Majesty the Queen at Windsor Castle, edited by Carlo Pedretti, London, Johnson Reprint, 1982 (レオナルド・ダ・ヴィンチ素描集, 第一輯「風景, 植物および水の習作」岩波書店, 1985).

2: ウインザー手稿の第三版とでも言える書物であるが、未完成の状態である。

1:I Manoscritti e i disegni di Leonardo da Vinci, pubblicati dalla Reale Commissione Vinciana, sotto gli auspici del Ministero della Istruzione Pubblica, Il Codice Arundel 263 nel Museo Britannico, riproduzione fototipica con trascrizioni diplomatica e critica, (Parte I - IV), Roma, Danesi-Editore, 1923-30.

2: アランデル手稿はレオナルドの身辺にあって、機械工学的なレオナルドの初期の手帳である。内容は比較的まとまっており、永久運動などもレオナルドの初期の構想が図や説明に現れている。 Reale Commissione Vinciana は伊政府機関の研究所であり、国の組織でもってレオナルドを出版しようとした。アランデル手稿はイギリスの美術館に収蔵されており、国際的な協力が必要で、世界中の学者が協力しあった。 Reale Commissione Vinciana はパリ手稿 A,B や Reister 手稿、Foster 手稿も出版している。

1:Parte Prima, 1923; Parte Seconda, 1926; Parte Terza, 1928; Parte Quarta, 1930.

I Manoscritti e i disegni di Leonardo da Vinci, pubblicati dalla Reale Commissione Vinciana, sotto gli auspici del Ministero dell'Educazione Nazionale, Il Codice Forster, nel Victoria and Albert Museum, (5 volumi), Roma, 1930-44.

2: フォースター手稿。ビクトリア・アルバート博物館に収蔵されている5冊本。アランデル手

稿と似た手稿であるが、フォースターのほうが後期である。美術関係はない。フォースターのほうが大判である。

1:Leonardo da Vinci, Codex Madrid, Biblioteca Nacional de Madrid, vol.I & II, Library number 8936/8397, A.McGraw-Hill Co-production, 1975 (『マドリッド手稿』岩波書店, 1975).

2: 何年か前に発見され、大きな問題を提起した。発見者は米国人で古い中世の歌謡を研究した人である。偶然、マドリッド手稿を見つけた。そのまま閉じて、米国に帰って、米国で報告した。そこで大きな問題となる。Prof. レティがトップとなり、解説に取り組んだ。日本では岩波が担当して私が呼ばれた。当時、私は伊にいたがスペインへ飛んだ。下村寅太郎先生に相談した。2年がかりでレティを翻訳した。私は Vol.II の前半を受け持った。後半は東京藝術大学・美術史の久保尋二 (***) または摩寿意善郎? (***)。 Vol.I は東大の清水純一 (***) または小野健一? (***) 他。 私がトップとして管理した。あとがきを他の先生方と書いた。インデックスが必要なので私の弟子が手分けして作成した。マドリッド手稿はファクシミリ版としては日本では最初の出版だった。当時のマスコミに大々的に取り上げられて、私もインタビュー受けたり、論文を書いたりした。「今世紀最大の事件」として取り扱われたが、その時私は30代であった。全てはマドリッド手稿に倣ってオリジナルを読もうということになった。これ以降、私はオリジナルのファクシミリを本格的に集めだした。その時、既に30%くらいしか持っていなかった。マドリッド手稿は伊でも出版され、現代伊語を付した。伊・英・日など十カ国語くらい出版された。

私がロンドンにいた時、Pedretthi もロンドンに来て岩波からも人が来た。

レオナルドの読みは困難である。誤訳は避けがたいものがある。些細なミスは許して頂きたい。ただ、こういうことはある。レオナルドの原本を読む場合は日本人か独人がレオナルドを一番正確に読むことができる。伊・英・仏は伊語に似ているため、原本を母国語として読める。しかし、日・独語は全く異なった文構造で翻訳しなくてはならない。だから、本当に理解していないと翻訳できないという側面がある。レオナルドの「vena」を伊語では「vena」でよいが、日本で「vena」の訳を「血管」では前後関係がおかしくなる部分がある。私が「血管」と訳したところを山田先生が「意味が通じない。これは「臍」と訳してはいけませんか」と問われた。それで、「血管（臍と訳すべきか）」と訳しておいた。

マドリッド手稿 II は天体の星の読み方について

・・・で壁画を描こうとした時、急に雨が土砂降りになった。

(***) 聞き取れず (***)

天体の言葉

(***) 聞き取れず (***)

レオナルドの中に入って中から読まねばならない。

1:Il Codice di Leonardo da Vinci, della Biblioteca di Lord Leicester in Holkham Holl, pubblicato sotto gli auspici del R.Istituto Lombardo di Scienze e Lettere, (Premio Tomasoni), da Gerolamo Calvi, Milano L.F.Cogliati, 1909.

2: レスター手稿。最初の出版はアトランティコ手稿の出版により刺激を受けて出版された。Carvi の仕事。内容は理工系で大きな書物である。今までに2回出版されている。3回目が

出た。アメリカに渡ってハマー手稿と呼ばれる。水力学、部分的に天文学で図は多くなく小さい。売りに出たので伊も買い戻そうとしたがセリにかかって米に渡った。私がフィレンツェにいた時であった。2枚の写真の上下が逆の写真が載った。米が買ったのでNew York Times紙にも載ったがその時の写真も天地逆であった。レオナルドの手稿の中で唯一個人の所有となっている。ビル・ゲイツ所蔵。

1:Il Codice di Leonardo da Vinci, della Biblioteca di Lord Leicester in Holkman Holl, pubblicato sotto gli auspici del R.Istituto Lombardo di Scienze e Lettere, (Premio Tomasoni), da Gerolamo Calvi, Firenze, Giunti-Barbera, Reprint, 1980.

2:1909年のリプリント版である。

Leonardo da Vinci (Trattati della Pittura「絵画論」の写本および刊本)

1:Bossi, Guiseppe, Manoscritto dal trattato della Pittura di Lionardo da Vinci nella Biblioteca Ambrosiana in Milano, [S.P.VI/13].

2: 手書きの写本である。「ミラノのアμβロジアーナにあるレオナルドの絵画論に関するマヌスクリプト」 高度な学術研究書。本の中の図は手書きで写したもの。

1:Trattato della Pittura di Leonardo da Vinci, novamente dato in luce con la vita dell'istesso autore, scritta da Rafaele su Fresne, Si sono giunti i tre libri della Pittura et il trattato della statua di Leon Battista Alberti, con la vita del medesimo, Paris, Langlois, 1651.

2: 伊語版。1651年に2冊の「絵画論」の省略本が出た。共に仏で出版されている。ここで、初めてレオナルドの「絵画論」が世に出ることになる。

1:Traite de la peinture de Leonard de Vinci, donne au public et traduit d'Italian en Francais par R.F.S.D.C.[Roland Freart Sieur de Chambray], a Paris, De l'Imprimerie de Iacques Langlois, 1651.

2: 仏語版。仏版にある「挿絵」は伊版にはない。

美術学校のテキストとしてレオナルドの「絵画論」が使用されていく。ニコラ・プッサンが写本を作って挿絵をプッサン自身が描く。

1:Trattato della pittura di Leonardo da Vinci, Milano, Dalla Societa Tipografica de'Classici Italiani, 1804.

2: 初版のみならず、諸芸術比較論は省略されていった。省略本が何十冊と出る。18Cいっぱいはそのようである。途中の煩雑な部分はカットされている。1804年版もそのようである。アモレッティが序文を書いた。ヴァザーリによるレオナルドの略伝あり。

1:Trattato della pittura di Lionardo da Vinci, trattato da un Codice della Biblioteca Vaticana, e dedicato alla Maesta di Luigi XVIII, Re di Francia e di Navarra, Roma, Nella Stamperia de

Romanis, Disegni che illustrano l'opera del Trattato della pittura di Lionardo da Vinci, tratti fedelmente dagli originali del Codice Vaticano, pubblicati da Guglielmo Manzi, Roma, 1817.

2:メルツィが書写した「絵画論」が発見され、メルツィの写本のオリジナルとしてマンツィ版が出る。それ以降、省略版は出なかった（省略版のリプリントは出た。）

1:Lionardo da Vinci, Das Buch von der Malerei, nach dem Codex Vaticanus (Urbinas) 1270, herausgegeben, übersetzt und erläutert von Heinrich Ludwig, (3 Band.), (Quellenschriften für Kunstgeschichte und Kunsttechnik des Mittelalters und der Renaissance, XXVII), Wien, Wilhelm Braumüller, 1882.

2:このルードヴィッヒ版が一番多く出版された。独語訳である。しかし、元のファクシミリは付いていない。伊語もない。独訳のみ。この版は詩人ゲーテも読んでいます。

レオナルドの絵画論の出版目録（Steiniz）に全ての出版が出ている。

1:Lionardo da Vinci, Das Buch von der Malerei, Neues Material aus den Originalmanuscripten, gesichtet und dem Cod.Vatic.1270, eingeordnet von Heinrich Ludwig, Stuttgart, Kohlhammer, 1885.

2:

1:Leonardo da Vinci, Traktat von der Malerei, nach der Übersetzung von Heinrich Ludwig, neu herausgegeben und eingeleitet von Marie Herzfeld, Jena, Verlag bei Eugen Deiderichs, 1909.

2:ルードヴィッヒ版に沿ったもの。

1:Leonard de Vinci, Traite de la peinture, et paysage, traduit integralment pour la premiere fois en Francais . . . , par Peladan, Paris, Delagrave, 1910.

2:仏訳版。

1:Trattato della Pittura di Leonardo da Vinci, Introduzione di Angelo Borzelli, Lanciano, Carabba, 1914.

2:小さい書物である。これも出回った。

1:Paragone, a Comparison of the Arts by Leonardo da Vinci, with an introduction and English translation by Irma A.Richter, London, New York, Geoffrey Cumberlege, Oxford University Press, 1949.

2:Manzi 版のおかげで Paragone（諸芸術比較論）を Richter が取り上げた。Richter の初版、第二版には Paragone はない。第三版で娘の Irma が取り込んだ。パラゴネの第 1 章を取り込んだ。これは、1939 年のものを別冊としたもの。

1:Treatise on painting [Codex Urbinas Latinus 1270] by Leonardo da Vinci, translated and annotated by A.Philip McMahon, with an introduction by Ludwig H.Heydenreich, (2vols.),

Volume I , Translation, Volume II , Facsimile, Princeton, New Jersey, Princeton University Press, 1956.

2: マクマホン版。英訳が付いて一番行き渡っている。ファクシミリが付いている。「絵画論」の最初のファクシミリ。 マクマホンはこれに生涯を費やした。奥さんが出版した。

1:Leonard da Vinci, La peinture, Textes traduits, reunis et annotes par Andre Chastel avec la collaboration de Robert Klein, Paris, Hermann, 1964.

2: 仏訳。大したことはない。

1:Leonardo da Vinci, Libro di Pittura, a cura di Carlo Pedretti, trascrizione critica di Carlo Vecce, Giunti Gruppo Editoriale, Firenze, 1995.

2:Pedretthi の手になる絵画論としては2度目のファクシミリ。高精度な写真技術によるファクシミリであるが、裏面までもが忠実に写真撮影されており、かえってマクマホン版のほうが見やすい感じがする。

1:Leonardo da Vinci, Libro di Pittura, Edizione in facsimile del Codice Urbinate lat. 1270 nella Biblioteca Apostolica Vaticana (2 volumi), a cura di Carlo Pedretti, Trascrizione critica di Carlo Vecce, Firenze, Giunti Gruppo Editoriale, 1995, No. 917.

2:

1:Liucci, Mondino dei, Translation of the Latin Text of the Anatomy of Mondinus written in the Year 1316 A.D, here beginneth the Anatomy of Mondinus.

2: モンディーノの解剖学。14世紀に書かれたラテン語からの翻訳。レオナルド以前の解剖学の見本。レオナルドはこれを参考にしたかどうか。

1:Lomazzo, Giovanni Paolo, Trattato dell' Arte de la Pittura, (Prima ed., Milano, Paolo got-tardo Pontio, 1584), Hildesheim, Georg Olms Verlagsbuchhandlung, 1968.

———, Idea del tempio della pittura, (Prima ed., 1590), Hildesheim, Georg Olms Verlagsbuchhandlung, 1965.

2: 私裾分にとっては重要な書物。絵画芸術論研究。レオナルドの後に Lomazzo が絵画に関する芸術論を書いた。レオナルドの影響を受けて書いている。もう1冊大事な書物「絵画の殿堂のアイデア」は絵画芸術賛美の書物。この書物にはレオナルドもミケランジェロも出てこないが、レオナルドの後時代がどのような影響を受けたかを知ることができる。Lomazzo はレオナルド研究そのものではないが、レオナルドの生きた時代の絵画やレオナルド自身がどのような後代の評価を受けたかを知ることができる。レオナルド研究史には重要ような書物である。この2冊は版を重ねて出版されている。

1:Ludwig, Heinrich → Leonardo da Vinci (Trattato della Pittura), 1882.

2: レオナルドの絵画論に関する厳密な編集出版をした。19世紀の終りにレオナルドの絵画論が有名になった。レオナルドの絵画論は16世紀ごろから出版されてきたが（イタリア版・フランス版は1651年同年に出版された。ただしこれらは省略本である。）17、8世紀の美術学校でこれらの本はベストセラーとなった。板を重ねた。19世紀に de Romanis (1817) 版（イタリア語版：Manzi 版）、Ludwig の重要性は、バチカンの図書館でウルビノ稿本が発見され、完本を作った。Ludwig はそれを独訳した（1882）。英語訳は Mac Mahon 版（1956）。これ以前にも英語訳があるが省略本である（Irma A. Richter しかし、Paragone だけは紹介した。それまでの省略本には Paragone は無かった。Irma の補充は Paragone だけ。その他の省略部分は補充していない）。Paragone はレオナルドの絵画論の最初の部分であるがその大半のオリジナルは失われている。メルツィが遺してくれた。

1:McMahon, A.Phillip → Leonardo da Vinci (Trattato della Pittura), 1956.

2:

1:Manetti, Antonio, Vita di Filippo Brunelleschi, preceduta da la Novella del Grasso, edizione critica di D.de Robertis con introduzione e note di G.Tanturli, Milano, 1976.

2: 「フィリップ・ブルネレスキの伝記」

ヴァザーリよりも4,50年早い時期。美術家の伝記を書くことはそれまでは例がなかった。だから、マサッチョやジョットの伝記はないのである。マネッティ（Manetti）の刺激を受けてヴァザーリが伝記を書いた。美術家と職人の伝記であって英雄の伝記ではない。ヴァザーリは何を参考にしたか。

ヴァザーリ以前のヴァザーリはマネッティだけではない。出版物としてはないが、原稿としては残っている。ヴァザーリはそれを見つけて、画家の生き方や作品を調べた。ヴァザーリ以前のヴァザーリが何を調べ、何に関心を持ったか。

ヴァザーリ以後のヴァザーリはヴァザーリの物まねに終始した。ヴァザーリ以後のヴァザーリから脱却したのは史実に基づいた科学的な伝記。

1:Martini, Francesco di Giorgio, Trattati di architettura ingegneria e arte militare, a cura di Corrado Maltese, traduzione di Livia Maltese Degrassi, (2 volumi) Milano, Edizione il Polittico, 1967.

———, La pratica di geometria, dal Codice, Ashburnham 361 della Biblioteca Medicea Laurenziana di Firenze, a cura di Gino Arrighi, Firenze Giunti, 1970.

2: 建築史で有名。この一冊をレオナルドが所有していた。そこにはレオナルドの書き込みがある。

1:Mazenta, Ambrogio, Le Memorie su Leonardo da Vinci ripubblicate e illustrate, a cura di Don Luigi Gramatica, Milano, Alfieri e Lacroix, 1919.

2: レオナルドと同時代人が書いたメモ。レオナルドに関するメモもある。レオナルドがどこで生まれて、何をしたか、生活態度など。メルツィが相続した遺品を持ち出した人。彼によると「ピ

サにレオナルドの遺品を持ち歩いている人がいた。相続を受けたメルツィ家に持ち込んだが、メルツィ家から譲ってもらった」と。

1:Olschki, Leonardo, Geschichte der neusprachlichen wissenschaftlichen Literatur, Erster Band, Die Literatur der Technik und der angewandten Wissenschaften, vom Mittelalter bis zur Renaissance, Heidelberg, Carl Winter's Universitätsbuchhandlung, 1919, Zweiter Band, Bildung und Wissenschaft im Zeitalter der Renaissance in Italien, Leipzig-Florenz-Rome -Geneva, Leo S.Olschki, 1922, Dritter Band, Galilei und seine Zeit, Halle (Saale), Max Niemeyer Verlag, 1927, reprinted, Vaduz, Kraus Reprint Ltd., 1965.

2:レオナルドの一般的な研究書。史実が正確な歴史書である。レオナルド研究史には重要。

1:Pacioli, Fra Luca, Divina Proportione, Die Lehre vom goldenen Schnitt, nach der venezianischen Ausgabe vom Jahre 1509, neu herausgegeben, übersetzt und erläutert von Constantin Winterberg, (Quellenschriften für Kunstgeschichte und Kunsttechnik des Mittelalters und der Neuzeit II Band), Wien, Verlag von Carl Graeser, 1889, Hildesheim, New York, Georg Olms Verlag, 1974.

———, Summa de Arithmetica Geometria Proportion et Proportionalita, (Prima ed., Venezia, 1494) reprint, Kyoto, Daigakudo Books, 1973.

2:レオナルドと親交があった。レオナルドも読んだ本である。数学の本。「Divina Proportione」：黄金分割。

1:Papini, G. → Alberti, Leon Battista (1913).

2:Alberti の絵画論に関するもの。

1:Piero della Francesca, De prospectiva pingendi, edizione critica a cura di G.Nicco Fasola, (Raccolta di Fonti per la storia dell'arte, diretta da Mario Salmi, V), Firenze, G.C.Sansoni, 1942.

———, Trattato d'abaco, a cura e con introduzione di Gino Arrighi, Pisa, Domus Galilana, 1970.

2: 画家であり、数学者。遠近法の発展に寄与した。

遠近法の発展 より精密、正確になっていった。

1.Alberty 遠くのもの小さく。

2.Piero della Francescco 幾何学的説明

3.Leonardo 色彩遠近法

1 : Pino, Paolo, Dialogo di pittura, (Prima ed., Venezia, 1548), Trattati d'arte del cinquecento, fra manierismo e controriforma, a cura di Paola Barocchi, (3 volumi), Bari, Gius.Laterza & Figli, 1960, vol.Primo.

2 : レオナルドよりも一世代後の人。 絵画に関する会話。絵画と彫刻との比較論。

1:Poggi, Giovanni →ヴァザーリ, Giorgio (1919).

———, Michelangelo Buonarroti (1965-1983).

2: ヴァザーリの初版を20世紀に入ってから出版した。それまでは第二版しか出版されなかった。

1:Poliziano, Angelo Ambrogini → Alberti, Leon Battista (1485).

2: レオナルドが恐らく読んだ本。

1:Pollione, Vitruvius, The Ten Books on Architecture, translated by Morris Hicky Morgan, New York, Dover Publications Inc., 1960.

———, Dell'architettura, a cura di Giovanni Florian, Pisa, 1978.

2: ギリシア時代の建築家。人体のプロポーション（比例論）を述べた。

1:Sandrart, Jacobo, *Variae Figurae monstruosae ab excell.pictore Leonardo da Vinci quondam delincentae, nunc vero acre incisae et excusae* a Jacobo Sandrart, Ratisbonae, 1654.

———, *Teutsche Academie der edlen Bau-, Bild-, und Mahlereykenste*, (2 Banden), Nurnberg,

I.P.Miltenberger, 1675-79.

———, *Academie nobilissimae artis pictoriae*..., Nuremberg, Chr.Sig.Froberg, 1683.

2: 北欧オランダの人。レオナルドがイタリアその他の国々に広く知れ渡るのはヴァザーリの伝記による。ヴァザーリの天才レオナルド像が広まった。その影響下の書物「優れた画家 レオナルド・ダ・ヴィンチの作品集」

1:Savonarola, Girolamo, *De Divisione et Utilitate Omnium Scientiarum*, c.1492.

2: レオナルドの作品を版画にしてカタログ。写真ではないため似て非なるものとなっているが、ヨーロッパの人々はこのカタログを通じてレオナルドを知ることになった。

1:Schlosser, Julius von, *Quellenschriften fur Kunstgeschichte und kunsttechnik des Mittelalters und der Neuzeit*, I - II .Band, Neu Herausgegeben von Constantin Winterberg, Wien, Verlag von Carl Graesen, 1888-90; III .Band, Herausgegeben von Wolfgang von Oettinger, 1890; IV - V .Band, Herausgegeben von Julius von Schlosser, 1892: reprint,

2: 美術家が残したメモなどの文書を網羅的に集めた書物。作品は出てこない。「中世と近現代における美術史または技術史上での基礎資料」

1:Spencer, John R → Alberti, Leon Battista (1956)

2:Alberti を英訳した。日本語には三輪が翻訳した。

1:Theophilus, *On Divers Arts*, translated from the Medieval Latin with introduction and notes by John G.Hawthorne and Cyril Stanley Smith, Chicago, University of Chicago Press, 1963.

2: 「様々な芸術について」 中世初期の芸術論。

1: Valturio Robert, De re militari, Verona, 1483.

2: 「兵器について」レオナルドが持っていた本。

1: Varchi, Benedetto, Due lezioni di M. Benedetto Varchi, nella prima delle quali si dichiara un sonetto di Michelangelo Buonarroti, nella seconda si disputa quale sia piu nobile arte la scultura o la pittura, con una lettera d'esso Michelangelo, & piu altri eccellentissimi pittori et scultori sopra la quistione sopradetta, Firenze, Lorenzo Torrentino, 1549.

———, Orazione funerale, Dim. Benedetto Varchi, fatta e recitata da Lui pubblicamente nell'essequie di Michelagnolo Buonarroti in Firenze, nella chiesa di San Lorenzo, indiritta al molto Mag. & Reurendo Monsignore M. Vincenzio Borghini Priore degli Innocenti, In Firenze, Appresso I Giunti, 1564.

———, Ercolano, 1560.

2: ミケランジェロについて述べている。絵画と彫刻の比較論。

1: Vasari, Giorgio, Le vite de' piu eccellenti architetti, pittori et scultori italiani, da Cimabue insino a' tempi nostri, de scritte in lingua toscana, da Giorgio Vasari pittore aretino, con una sua utile? e necessaria introduzione a le arti loro, (2 volumi), Firenze, Lorenzo Torrentino, 1550.

———, Le vita de' piu eccellenti pittori, scultori et architettori, scritte, et di nuovo ampliate da M. Giorgio ヴァザーリ pittore et architetto aretino, co' ritratti loro, et con le nuove vite dal 1550 insino al 1567, (3 volumi), Firenze, Giunti, 1568.

2: 美術の歴史の発展史。ルネサンス期に歴史観をヴァザーリは見ている。序文にある言葉。

13 世紀 alla natura 自然に従う。ジョット

14 世紀 imitare natura 自然を描いて過ちがない。自然を忠実に写す。マサッチョ

15 世紀 Sur passari 自然を超えて。超えて進む。

歴史的に発展している。15 世紀の sur passari はミケランジェロが基準となっている。

ミケランジェロの作品の中に「夜」がある。熟睡中としては不自然であるが、表現目標としてはかなっている。

ヴァザーリの「伝記」には初版と第二版とがある。これは大事な問題。当時としては作者が生きている間に同じ本の第二版が出ることは極めて稀である。ヴァザーリは第二版を自費出版までして出版した。覚悟の上での第二版の出版である。単に誤謬の修正のためだけではない。以後出版されるのは第二版ばかりである。初版と第二版との比較をする作業は興味ある仕事である。初版の訂正された部分はどこか。追記された部分はどこか。初版と第二版との間は 18 年間あるが、この 18 年の差は何か。

1. より正確になった。訂正された部分がある。

2. 時代区分による発展史を組み立てる

3. デッサンという語がやたらと多い。このデッサンという語は初版にはなかった語である。ヴァザーリ自身も 100 枚くらいの収集している。ヴァザーリのデッサンコレクションはウフィチ美術館

に収蔵されている。参照：ガントナーの素描概念の発展史。

1:——, *Le vite de' piu eccellenti pittori, scultori, e architettori nelle redazioni del 1550 e 1568*, testo, a cura di Rosanna Bettarini, commento secolare, a cura di Paola Barocchi, Firenze, Sansoni, 1966-84.

2: